# ガンコ親父の「赤ずきん」に乾杯!!

ある日、赤ずきんは母親に呼ばれた。「あなたの赤いずきんを縫ってくれたおばあさんが病気なの。それで、元気が出るようにうなぎの蒲焼とおばあさんが好きなお酒を持っていってくれる?」と仕事を休めない母親からお見舞いを頼まれたのだった。

「ただね、途中に森があるの。森には悪いオオカミが住んでいると聞くから、もしオオカミから声をかけられても、絶対に知らん顔をするのですよ」と赤ずきんに言い聞かせた。

次の日、天気も良く、スキップしながら赤ずきんちゃん、どこに聞いた通りにオオカミが現れ、「可愛い赤ずきんちゃん、どこに行くの?」と柔和な顔で声をかけた。話と違う優しそうなオオカミだったので、つい心を許した赤ずきんはおばあさんの家に行くことを漏らしてしまった。赤ずきんを前にして、オオカミはヨダレが出そうだったが、やっとの思いでお婆さんの家を聞き出したのだった。

赤ずきんがおばあさんの家の戸を叩くと、「さあ、遠慮せずにお入り。ゴホゴホッ。おっと、変な感染症じゃないから心配ないわよ」とガラガラ声が慌てた。奥の薄暗いベッドにはオオカミがいたのだ。先回りをしたオオカミはおばあさんを丸呑みにし、おばあさんの着物を着て、寝ていた。消臭剤などなかったので部屋の中には獣臭もしたが、森の中だからだろうと思った赤ずきんはベッドに近づいた。

「あら、おばあさんの耳はこんなに大きかったかしら?」「もちろんよ。お前の声をしっかり聞きたいからね」とオオカミは応えた。「おばあさんの目、大きくてギラギラしている。なんだか怖いわ」「大丈夫だよ、もっとお前をよく見たいからだよ」とウィンクをした。「それにあまりにも口が大きいからびっくりしたわ」「このくらい大きくないとお前を食べられないからさ!」と言いながら赤ずきんをパクりと丸呑みしてしまった。「おっ、俺の好きな銘柄の焼酎じゃないか」と言って、赤ずきんが持ってきたうなぎの蒲焼を肴にして胃の中に流し込んだ。オオカミはすぐに酔っ払って、ダウン。

猟師・松次郎がちょうどおばあさんの家の前を通りかかると、無防備にも扉が開いていた。中を覗くとおばあさんの姿はなく、ベッドの上には腹を大きく膨らませたオオカミがいびきをかきながら寝込んでいた。ベッドの脇には空になった『しまっちゅ伝蔵』の瓶が転がっていた。オオカミのくせに俺の好きな銘柄の焼酎を飲んでしまうとはとんでもないやつだと、松次郎は呆れてしまった。よく見ると狼の腹の中で何かが動いている。もしやおばあさんではと思った松次郎は、鉄砲を撃つ代わりにナイフでオオカミの腹を切り裂いたのだった。

すると、中からはおばあさんと赤ずきんが出てきた。松次郎は懲らしめようと、狼の腹に石をいっぱい詰め込み、腹を縫い上げた。

松治郎に放り出された悪いオオカミは帰る途中、喉が渇いたので川の水を飲もうとして足を滑らせた。そのままドボンと落ち、二度と姿を現すことがなかった。めでたし、メデタシ。『しまっちゅ伝蔵』があるところには、やっぱりハッピーエンドが待っている。

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵(でんぞう)

常圧蒸留

900㎖(25度)　1800㎖(25度)　1800㎖(25度)

**昔ながらの手造りこだわり焼酎**

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

25度 好評発売中

くろちゅう

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造㈱は、この活動を応援しています。

the most beautiful villages in japan
喜界町
鹿児島県

http://www.kurochu.jp　お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。